

吹田市地域包括支援センター運営関係資料

平成28年度(2016年度)第1回
吹田市地域包括支援センター運営協議会

吹田市地域包括支援センター運営関係資料目次

1 総合相談支援業務関係	1
(1)総合相談件数	
(2)地域におけるネットワークの構築	
(3)相談事例	
2 権利擁護業務関係.....	7
(1)高齢者虐待にかかる統計資料	
(2)成年後見制度の活用促進	
(3)消費者被害の防止	
3 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務関係	10
(1)ケアマネジャー懇談会の活動	
4 指定介護予防支援業務関係	12
(1)要支援認定者数、介護予防支援業務、一部委託作成事業所数	
(2)介護予防サービス利用終了について(理由別)	
5 認知症支援に関する取組関係.....	14
(1)認知症サポーター等養成事業実施状況	
(2)認知症サポーターの活動支援	
(3)徘徊SOSネットワーク事業	
(4)認知症地域サポート事業(徘徊高齢者搜索模擬訓練)	

1 総合相談支援業務関係

(1) 総合相談件数

全体で権利擁護関係、総合相談、(再掲)認知症に関する相談等の相談件数が増加する

地域名	包括名	総人口	高齢者人口	高齢化率	相談件数							
					権利擁護関係		介護支援専門員からの相談		総合相談		(再掲)認知症に関する相談	
					26年度	27年度	26年度	27年度	26年度	27年度	26年度	27年度
JR以南	吹六一	14,800	4,223	28.5%	190	151	183	227	652	864	146	125
	東吹三	20,099	6,039	30.0%	126	278	163	166	1,047	1,353	241	191
片山・岸部	片山	30,087	6,532	21.7%	144	76	128	170	629	637	138	199
	岸部	23,758	6,311	26.6%	54	376	122	170	912	1,244	268	540
豊南吹田・江坂	南吹田	22,939	4,895	21.3%	52	38	139	98	726	597	190	142
	江豊坂津	42,120	7,045	16.7%	79	94	198	190	1,031	1,097	385	511
千里山・佐井寺	佐井寺 千里山	24,095	4,388	18.2%	77	20	115	87	712	548	236	90
	千里山	29,341	5,676	19.3%	204	152	143	78	901	957	245	216
山田・千里丘	山田	51,003	12,450	24.4%	249	206	180	63	1,474	1,085	406	323
	千里丘	42,554	7,575	17.8%	48	16	79	90	752	729	103	139
千里ニュータウン 万博・阪大	南千里	30,294	9,197	30.4%	129	50	446	273	2,060	1,843	323	329
	古江台	16,665	5,399	32.4%	5	221	86	168	637	854	151	362
	藤津白雲台	19,755	4,906	24.8%	40	109	195	158	912	1,002	281	348
合計		367,510	84,636	23.0%	1,397	1,787	2,177	1,938	12,445	12,810	3,113	3,515

※ 総人口及び高齢者人口は、平成28年(2016年)3月末現在

(2) 地域におけるネットワークの構築

地域ケア会議の開催回数及び民生委員会議等の出席回数

地域ケア会議の随時会の開催回数、民生委員会議等への出席回数とともに減少しています。

地域名	包括名	地域ケア会議開催回数				民生委員会議等への出席回数	
		定例会		随時会		26年度	27年度
		26年度	27年度	26年度	27年度		
豊南津・南吹・田江坂	田南吹	5	5	1	0	3	0
	江豊坂津						
片山・岸部	片山	5	5	0	0	4	0
	岸部						
千里山・井寺・佐	佐千里山 井東寺	5	5	1	0	3	0
	千里山西						
JR以南	吹吹六一	5	5	2	0	4	0
	吹三東						
山田丘・千里	山田	5	5	1	1	4	1
	丘千里						
千里ニュータウン 万博・阪大	里南千	5	5	0	1	3	0
	台青山台古江						
	台藤台津雲 白						
合計		30	30	5	2	21	1

(3) 相談事例

平成 27年度の総合相談件数は12, 810 件、権利擁護関係は1, 787 件、介護支援専門員からの相談は 1, 938 件ありました。相談者は本人、家族のほか近隣住民や関係機関、病院、ケアマネジャー等となっています。

南吹田	概要 相談の	別居の子からの相談。これまで地域の役員を率先して引き受けていた本人であったが、物忘れが進行し転倒、飲酒も増え、近隣とトラブルになっている。その対応に仕事の子が呼び出される状況になっており、子は心身ともに大きな負担を感じている。
	対応	子に対して、高齢者の疾病や介護保険のサービスについて説明を行う。物忘れの進行について専門病院の受診をすすめ、並行して介護保険認定を申請する。対応当初からケアマネジャーと協力し、サービスの暫定利用の調整を行う。
	結果	アルツハイマー型認知症との診断で、要介護1と認定される。訪問介護と通所介護を利用し、食事や入浴、服薬の機会を確保。サービス利用により本人は飲酒する機会が減り、転倒が減少、体調が安定した。その結果、子の介護負担の軽減、近隣トラブルの解消につながり、現在も独居生活が継続できている。
豊津・江坂	概要 相談の	夫はガン末期。子どもはいない。本人は認知症があり、夫の死後の生活が不安。本人には夫の病気は理解できず、気ままな生活を続けている。夫及び夫の担当医を通じてMSW(医療ソーシャルワーカー)より今後のことをどうしたら良いかとの相談。
	対応	夫の遺言書作成、本人に成年後見人制度の利用を弁護士に相談、対応を依頼。夫はすぐに入院。介護保険申請するが介護保険料の長期未払いがあることが判明。ケアマネジャー選定後、償還払いとなったが訪問介護利用しながら一人暮らしを継続。
	結果	夫はその後死去。遺言により本人に財産はすべて移譲。介護保険サービス、親族(甥夫婦)の定期的な見守りを受けながら独居生活を継続中。また、弁護士に相談しながら甥が成年後見人申し立てを行った。
片山	概要 相談の	一人暮らしの女性から「最近物忘れするようになった。認知症かと心配」と本人から相談あり。話しの内容から専門機関の受診を勧めるとともに、担当のケアマネジャーに連絡する事に了解を得て受診の支援を依頼した。その後周辺住民より本人から被害妄想があり困っていると相談がある。
	対応	ケアマネジャーから本人から受診の相談があり、物忘れ外来に同行受診する事となったと報告あり。周辺住民や民生委員と社協 CSW(コミュニティソーシャルワーカー)と一緒にカンファレンスを開催し、ケアマネジャーやサービス事業所が対応している事を伝えた。
	結果	本人はケアマネジャーに同行してもらえ事受診する気になった。また地域の見守りの中で緊急通報システムの導入など福祉サービスの利用で見守りの輪を広げることができた。

岸部	概要 相談の	同居している子から父親の相談。現在、入院中で、退院の話しが病院からでて いる。ケアマネジャーからは、在宅介護の方向でしか方法はないと言われている が、子としては、父親の現在の病状(パーキンソン病発症)や状態(認知面低下) と自身の家庭状況(母子家庭で終日就労)から自宅での介護は難しい、支援して ほしいとの内容で相談を受ける。
	対応	子とケアマネジャー、包括で面談を行う。子の意向や生活状況を聞き取り、方 向性を決める。それぞれで役割分担をし、老人保健施設入所に向けて動き直接 入所することができた。入所後すぐに地域のグループホームに空きがあるとの情 報があり、入所に向けて対応。
	結果	病院から老人保健施設へ。その後、グループホームへ入所でき、生活保護受 給や指定難病申請を行い、現在、本人はグループホームで安定した生活を送っ ている。
千里山東・佐井寺	概要 相談の	本人の認知症が進み家族への暴言や妄言が激しい。妻は長年に渡る本人から の暴言等のためうつ病があり、今回肺がんも見つかった。長男は精神疾患があり 本人とは不仲。長女が家族全員の支援をしているが負担が大きく精神的に参っ ていると相談あり。
	対応	本人のケアマネジャーを交え、長女だけでなく妻の妹にも関わってもらい、カン ファレンスを実施。その後、次女にも現状を伝え、長女への負担を軽減したうえで 継続的に助言や提案を行った。
	結果	妻が肺がん治療のため入院し、退院後も妻の妹宅で一時的に過ごせたため長 女の負担が軽減。妻が帰宅後、介護保険サービスを導入し病状は安定。本人が 気に入っているデイサービスの通所回数を増やしたことで機嫌が良くなり家族との 関係は落ち着いた。妻の妹も定期的に支援してくれ、長女は仕事に専念すること ができ精神的に落ち着いた。
千里山西	概要 相談の	独居。介護予防アンケートの件で高齢支援課より電話連絡を入れるが、辻褄が 合わず認知症が疑われると包括に連絡が入り後日訪問する。自宅は物やゴミが 散乱しており、本人はゴミの上に座り洋服の着方もおかしく、食事も摂っていない 様子。頭痛の訴えや幻覚幻視も見られていた。
	対応	民生委員へ連絡を取り他市に住む姉の所在を確認。翌日、姉と共に総合病院 を受診。翌々日には専門病院への受診支援を行い医療保護入院となる。入院中 に介護保険の申請を行い、支援者で自宅の大掃除を2回行う。その間に親族申 し立てにて成年後見制度の支援も行った。
	結果	入院加療を継続した事で認知症状も改善され、本人、姉、主治医や病院の担 当者、在宅の支援者とで担当者会議を重ね、自宅の住環境を生活できる状態に 整える等の退院支援を行う。本人は判断力の低下や混乱等があるものの、現在 はヘルパーが1日3回訪問し、関係機関が連携して在宅生活を支えている。
吹一・吹六	概要 相談の	子より介護保険未申請で、認知機能が著しく低下している独居の母親のことで 相談あり。母親は医療や介護を受けることを嫌がっていたが、食事も摂れず、立ち 上がれない状態になっている。どうすればよいか。

	対応	包括職員が緊急訪問。本人の状態を確認し、本人には病院受診を説得しつつ、医療機関の医療相談室に連絡し、救急搬送による入院の手配を行った。
	結果	以前から何度か訪問していた、顔馴染みの包括職員の促しにより、本人の同意を得ることができ、救急搬送に繋げることができた。
吹三・東	概要 相談の	民生委員から、本人の認知症が進んできており、近所を用事もなく歩きまわったり初夏に真冬の格好をしたりしている。子が金銭管理をしているが不十分で認知症に対する理解も低いと相談がある。
	対応	民生委員と包括で毎日のように訪問し、本人の体調の把握や室温の管理を行う。食事の確保が出来るように配食サービスの手配をした。子には認知症に関する情報提供を頻繁に行い、重度化している事を理解してもらう。介護認定が必要なことも認識してもらい申請につなげた。
	結果	入浴も出来ず、その後徘徊も頻繁となり警察に保護をされることが増える。本人、子が納得をされたため有料老人ホーム入所の支援を行う。面接など同席を行い、施設入所となった。
山田	概要 相談の	本人のかかりつけ医療機関から相談あり。認知症の妻を介護している夫が「死んでしまいたい」「疲れた」と泣きながら医療機関で話し、いつもと様子も違った。このまま医療機関だけで支援するには限界があると感じた。本人、妻に支援が必要と思われる。夫には了解は得ていない。
	対応	夫に連絡するが、介護疲れでしんどくなっている会話にはならず、介入しづらい状況。その後も数回連絡を入れ様子を聞く中でようやく「自分もしんどい」と発言がみられる。デイサービスの利用について関心を示し、訪問し本人とも話ができ、ケアマネージャーにつなぎ、夫も介護認定の申請を行う。
	結果	その後ケアマネージャーに訪問してもらうが、具体的な話をしていく中で本人、夫のサービス拒否があり、サービス導入には至っていない状況。ケアマネージャーによる訪問を継続しながら様子を見ている。
千里丘	概要 相談の	アルツハイマー型認知症で未婚独居女性。昨年頃から自身の異変に気づき、自ら相談先を探す。不安時は高齢福祉室や包括に来所や電話が頻回となっていた。かかりつけ医に連絡し予約した認知症診断日を覚えておらず、かかりつけ医へ不満をぶつける場面や不安となると周辺症状が多く出現。
	対応	包括よりかかりつけ医と甥に連絡。甥の、本人が「現生活を続けたい」思いを支援したいという気持ちを受け止め、病状や今後の生活に予測を立てながら支援の方向性等を話し合う機会を持つ。マンション管理者、サービス事業者に連携を行えるよう支援を行う。
	結果	その後体調急変し入院手術。入院中や退院時に混乱状態となるも、区分変更しケアマネージャーに繋ぎ、病院相談員にも相談。帰宅直後からヘルパーの訪問サービスを受け、現在はかかりつけ医に一人で受診する。デイ利用が楽しみとなり、病状緩やかに在宅独居を維持している。

南千里	概要 相談の	男性、縁故者は東京の実姉のみ。近所の女性から「幻聴、幻視、物とられ妄想、物忘れがある様子」と相談あり。当初、本人の主訴はなかったが、その後「物忘れがある。友人が良い薬があるといっていた」と、専門医の診察を希望。
	対応	別の近隣女性が「包括との相談」を主に勧め、一緒に訪問したが、その後も主訴はなく傾聴を行った。また、府営住宅申請書記入、郵便局口座解約と、他の銀行への口座開設等、一人では難しいことを支援した。さらに、介護保険申請や専門医療機関への外来通院の同行なども行った。
	結果	要介護1。「アルツハイマー型認知症」と告知あった。主は「薬を飲んで明るくなり良かったが、物忘れで特に困らない」等、介護サービス利用に消極的だったが、その後リハビリ目的に「作業療法士によるパソコン指導」を希望され介護保険サービスが開始された。また、近隣の女性は見守りを継続されている。
古江台・青山台	概要 相談の	独居女性。UR 職員より、昨年娘が亡くなってから家賃の滞納が続いており、強制退去の連絡が来ているが電話や訪問でも本人と連絡がとれなくて困っていると連絡あり。
	対応	包括職員が何度か訪問を繰り返している間に本人に会えるが、室内は整理できておらず認知症の疑いがあり手続き等が理解できない状態であった。UR 職員・生活福祉課ケースワーカー・社協 CSW と連携をとり、施設入所のための手続きを支援した(介護保険申請・受診・施設探し・転居手続き等)。
	結果	強制退去日にサービス高齢者住宅に無事入居できた。疎遠になっていた娘婿と連絡をとり成年後見制度の利用を勧めた。
津雲台・藤白台	概要 相談の	本人と知人から相談。独居女性、家賃の支払いができていないことが分かり、知人が支援して未払いの清算は出来たが金銭管理ができていない様子がみられる。子どもはなく姪にも関われないと言われている。金銭管理の支援をしてもらいたい。
	対応	本人と面談。預貯金が全くなく判断力の低下と金銭管理が行えていない様子を確認。生活面の支援と金銭管理の支援を行う事となる。介護保険を申請し、リーガルサポートを通じて司法書士に依頼し協働で成年後見申し立ての為の支援を行う。認知症疾患医療センターに受診同行。後見申し立ての診断書作成。
	結果	介護保険認定がおりヘルパーによる生活面の支援開始。自宅内で転倒しているところをヘルパーが発見し骨折のため入院。入院中の検査にて肝転移がみつきり病院にて亡くられる。後見申し立てまでは行えなかったが包括とケアマネジャー、ヘルパーの支援にて金銭管理の不安については軽減できていた。

2 権利擁護業務関係

(1) 高齢者虐待にかかる統計資料

養護者による高齢者虐待への対応では、高齢者虐待と認定された件数は、昨年より増加し、54件である。通報経路は、ケアマネージャからの通報が30.3%と最も多く、次いで警察となっている。虐待の種別では「身体的虐待」が48.8%と最も多く、次いで「心理的虐待」「介護放棄」「経済的虐待」の順だった。被虐待高齢者の性別では、「女性」が約8割を占めている。

通報経路〔複数回答〕		
	H26年度	H27年度
ケアマネ	21	23
近隣住民・知人	2	0
民生委員	1	0
本人	5	11
家族・親族	8	4
虐待者	0	1
行政職員	7	9
警察	30	19
その他	4	8
不明	0	1
計	78	76

事実確認の有無	
有	74
無	0
計	74

立入調査以外	
訪問調査	60
情報収集	14
計	74

立入調査	
警察同行	0
援助要請のみ	0
計	0

調査なし	
調査不要	0
調査検討中	0
計	0

虐待の有無(判断)		
	H26年度	H27年度
有	47	54
無	23	19
判断に至らず	0	1
計	70	74

虐待種別〔複数回答〕		
	H26年度	H27年度
身体的虐待	39	39
介護放棄	4	9
心理的虐待	19	27
性的虐待	0	0
経済的虐待	4	5
その他	0	0
計	66	80

性別		
	H26年度	H27年度
男	8	12
女	39	42
不明	0	0
計	47	54

年齢別		
	H26年度	H27年度
～64	0	0
65～69	5	6
70～74	8	15
75～79	14	15
80～84	10	13
85～89	7	4
90～	3	1
不明	0	0
計	47	54

認定の有無		
	H26年度	H27年度
未申請	20	20
申請中	2	1
自立	1	1
要支援1	1	4
要支援2	5	5
要介護1	2	5
要介護2	9	9
要介護3	3	4
要介護4	2	2
要介護5	2	3
申請不明	0	0
介護度不明	0	0
計	47	54

認知自立度		
	H26年度	H27年度
自立	17	17
I	7	7
II	3	5
III	6	8
IV	0	0
M	0	0
自立度不明	13	16
認知有無不明	1	1
計	47	54

同居・別居	
同居	50
別居	4
その他	0
不明	0
計	54

世帯構成	
独居	4
夫婦二人世帯	14
未婚の子と同居	22
既婚の子と同居	8
その他	6
不明	0
計	54

虐待者との関係〔複数回答〕		
	H26年度	H27年度
夫	17	15
妻	1	2
息子	15	23
娘	10	11
息子の嫁	0	0
娘の婿	1	0
兄弟姉妹	0	2
孫	2	0
その他	1	2
不明	0	0
計	47	55

分離の有無	
分離	23
非分離	29
異なる対応	1
その他	1
検討中	0
計	54

分離内訳	
サービス	9
措置	0
面会制限	0
緊急保護	2
一時入院	6
その他	6
計	23

非分離内訳〔複数回答〕	
助言・指導	19
養護者サービス	3
本人サービス	8
プラン変更	0
保険外サービス	0
その他	0
見守りのみ	3
計	33

権利擁護	
後見開始済	0
後見手続中	1
市町村長申立	1
権利擁護	0
計	2

(2) 成年後見制度の活用促進

ア 成年後見制度に関する相談の実績

13か所の地域包括支援センターで、制度説明や手続き方法の助言など成年後見制度全般に関する相談に対応しています。

平成26年度と27年度の相談数はほぼ同件数となっています。

平成27年度には、司法書士会が開催した市民向けの「成年後見制度と遺言の市民セミナー」の相談コーナーで、地域包括支援センター職員が司法書士と連携して相談対応するなど、他機関と協力して啓発に取り組みました。

年度	新規の相談	継続の相談
平成27年度	102	328
平成26年度	119	324

※単位：件

イ 成年後見制度利用支援事業の実績

市長申立とは、判断能力が十分でない市民が後見人が必要な状況であるのに、申立人がいないなどその手続きが困難な場合に、後見開始の審判等の請求を市長が行うもので、老人福祉法に規定されています。また、資力の乏しい市民の方でも、安心して成年後見制度を利用できるよう、審判申立にかかる請求費や、後見人等の費用である報酬費の助成を行っています。

平成27年度は市長申立、請求費助成、報酬費助成とも増加しています。

年度	市長申立	本人・家族申立による請求費助成	報酬助成
平成27年度	10	2	10
平成26年度	7	0	9

※単位：件

(3) 消費者被害の防止

振り込み詐欺や送りつけ商法、訪問買取などについて、被害にあう前に防止できるよう啓発を行うとともに、相談があった場合は消費生活センター等と連携して、対応を行っています。また、必要に応じて成年後見制度利用の手続きを支援するなど、常に権利擁護の視点を意識しています。

前年度と比べ新規数は減少しましたが、継続支援数はほぼ同件数あり、消費生活センターとの連携で早期にクーリングオフなどの具体的な対応を行ったり、独居高齢者に対して親族への相談をすすめたり、弁護士会等への専門相談を紹介するなどの支援を行っています。

年度	新規	継続
平成27年度	19	15
平成26年度	30	14

※単位：件

3 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務関係

(1) ケアマネジャー懇談会の活動

地域のケアマネジャーの支援を目的とした懇談会を、地域の実情に合わせて行いました。学習会や事例検討、情報交換など、それぞれの地域でケアマネジャーの要望に基づいた内容で実施しており、運営はケアマネジャーの協力も得て行っています。

実施回数と主な内容は以下のとおりです。

開催回数・参加人数 平成27年4月～平成28年3月 35回・601人

平成26年4月～平成27年3月 35回・683人

	実施日	主な内容	参加人数
JR以南	平成27年5月28日	「身寄りのない方の最後の対応について」	20
	平成27年8月20日	「地域包括ケアシステムにおける鍼灸マッサージについて」	15
	平成27年11月19日	「介護保険改正について」困ったことや工夫したこと	14
	平成28年2月18日	「今年度の振り返りと来年度に取り組んで欲しいテーマ」	16
片山・岸部	平成27年6月19日	平成27年度の年間計画について	23
	平成27年8月21日	学習会「生活保護制度の変更点、および生活困窮者自立支援事業の概要について」	22
	平成27年12月18日	事例検討「介護保険サービスと障がい福祉サービスを併用している事例」	18
	平成28年3月18日	今年度の振り返りと来年度の活動内容について	18
豊津・江坂・南吹田	平成27年6月19日	「鍼灸マッサージについて」	25
	平成27年10月16日	「民間配食サービスについて」	28
	平成28年2月19日	「最適な老人ホームの選び方」	22
千里山・佐井寺	平成27年4月6日	情報交流「介護保険制度の改正について」	18
	平成27年6月5日	情報交流「認知症の人・家族の支援について」	22
	平成27年8月5日	学習会「介護保険制度の改正について」	18
	平成27年10月6日	学習会「認知症高齢者への支援における訪問看護サービスについて」	17
	平成27年12月4日	学習会・交流「認知症疾患医療センターの役割と地域連携について」	23
	平成28年2月6日	本年度のまとめ及び来年度の開催について	18
山田・千里丘	平成27年4月21日	平成27年度山田・千里丘地区ケアマネジャー懇談会について	12
	平成27年5月19日	平成27年度介護保険改正におけるデイサービス	20

		の送迎について	
	平成27年6月16日	介護保険制度の改正について(平成27年8月)	23
	平成27年7月21日	「オール大阪の社会福祉法人における社会貢献事業」	19
	平成27年8月18日	通所リハビリテーション:負担割合2割負担について	18
	平成27年9月15日	退院時支援体制について	13
	平成27年10月20日	事業者連絡会全体会の報告と意見交流	14
	平成27年11月17日	各事業所からの報告、「今さら聞けない疑問」等の交流	15
	平成27年12月15日	吹田保健所(精神保健)の支援について	15
	平成28年1月19日	薬局との交流「地域のかかりつけ薬局としての役割」	20
	平成28年2月16日	今年度の振り返りと来年度の活動について意見交流	11
	平成28年3月15日	意見交流「病院の相談室との連携について」など	6
千里ニュータウン・万博・阪大	平成27年4月9日	活動計画について	13
	平成27年6月11日	生活困窮者自立支援センターについて	15
	平成27年8月21日	保健所(精神保健)の支援について	11
	平成27年10月8日	吹田コスモスの会・ほっと吹田の活動について	13
	平成27年12月10日	成年後見制度～リーガルサポート大阪～	15
	平成28年2月18日	「傾聴と自立支援」について	11

4 指定介護予防支援業務関係

(1) 指定介護予防支援担当数

前年と比較し、サービス利用者数は213人増加しています。委託担当数は281人増加し、委託率も高くなっています。

地域	包括	要支援認定者数 (平成27年度 3月末時点)	指定介護予防支援担当数								委託事業所数		
			平成26年度(3月末時点)				平成27年度(3月末時点)				平成27年度(3月末時点)		
			包括担当者数	委託担当者数	合計	委託率	包括担当者数	委託担当者数	合計	委託率	事業所数	1事業所あたり 最多委託担当数	1事業所あたり 最多委託割合
JR以南	吹吹六一	310	70	92	162	56.8%	57	122	179	68.2%	40	12	9.8%
	東吹三	457	81	169	250	67.6%	86	174	260	66.9%	45	29	16.7%
片山・岸部	片山	405	103	123	226	54.4%	88	161	249	64.7%	35	17	10.6%
	岸部	464	98	171	269	63.6%	108	174	282	61.7%	38	18	10.3%
豊津・江坂 南吹田	南吹田	179	95	69	164	42.1%	74	99	173	57.2%	27	12	12.1%
	江豊坂津	245	57	226	283	79.9%	47	231	278	83.1%	44	30	13.0%
千里山・佐井寺	佐井寺 千里山	257	81	79	160	49.4%	69	107	176	60.8%	37	11	10.3%
	千里山	395	102	127	229	55.5%	96	170	266	63.9%	49	17	10.0%
山田・千里丘	山田	585	162	186	348	53.4%	158	193	351	55.0%	58	18	9.3%
	千里丘	346	46	142	188	75.5%	57	157	214	73.4%	45	30	19.1%
千里ニュータウン 万博・阪大	南千里	830	149	321	470	68.3%	146	381	527	72.3%	71	46	12.1%
	青山台	427	108	147	255	57.6%	94	172	266	64.7%	54	15	8.7%
	藤白雲台	347	85	134	219	61.2%	89	126	215	58.6%	46	15	11.9%
合計		5,247	1,237	1,986	3,223	61.6%	1,169	2,267	3,436	66.0%			

(2) 指定介護予防支援終了理由

終了理由で最も多いのは、要介護への移行で63.5%を占めています。自立により終了した割合は14.0%で、微増しています。

地域	包括	平成26年度					平成27年度				
		終了理由				計	終了理由				計
		要介護への移行	自立	死亡	※1 その他		要介護への移行	自立	死亡	※1 その他	
JR以南	吹吹六一	46	10	3	3	62	44	8	5	3	60
	東吹三	52	2	5	6	65	47	8	5	13	73
片山・岸部	片山	51	7	5	4	67	55	8	5	6	74
	岸部	48	8	4	3	63	64	9	4	6	83
豊津・江坂 南吹田	南吹田	28	10	4	11	53	40	12	2	6	60
	江豊津坂	38	0	8	2	48	30	0	8	2	40
千里山・佐井寺	佐井寺 千里山	37	9	2	13	61	44	12	1	5	62
	千里山	40	14	3	13	70	51	8	4	8	71
山田・千里丘	山田	66	14	6	7	93	73	15	6	11	105
	千里丘	43	12	3	11	69	39	11	6	19	75
千里ニュータウン 万博・阪大	南千里	101	20	16	14	151	94	32	13	19	158
	青古 山江 台台	40	4	6	26	76	37	12	7	46	102
	藤津 白雲 台台	47	17	7	19	90	45	11	5	20	81
計		637	127	72	132	968	663	146	71	164	1,044
		65.8%	13.1%	7.4%	13.6%	100.0%	63.5%	14.0%	6.8%	15.7%	100.0%

※その他の理由は、転出、入院、施設入所等。

5 認知症支援に関する取組関係

(1) 認知症サポーター等養成事業実施状況

平成29年度までに人口の6% (約21,700人) の認知症サポーターを養成することを目標とし、平成28年3月末現在で14,147人(メイトとサポーターの合計数)となり、約65.2%に達しました。認知症サポーター養成講座は、出前講座として地域や企業、学校等からの依頼を受けて実施していますが、平成27年度は市民対象講座を市内6ブロックで実施した他、企業・職域団体、行政職員の受講が多くありました。

ア 認知症キャラバン・メイト登録数 (単位:人)

～平成25年度	平成26年度	平成27年度	累計
160	40	19	219

イ 認知症サポーター養成講座開催状況

年度	～平成25年度	平成26年度	平成27年度	累計
開催回数(回)	216	100	89	405
受講者数(人)	7,055	3,671	3,202	13,928

ウ 認知症サポーター養成講座受講者数の内訳 (単位:人)

対象		平成26年度	平成27年度
住民	一般住民	1,671	860
	(内訳) 自治会	789	177
	市民向け講座	181	188
	ボランティア等	194	142
	その他	507	353
	民生・児童委員	69	0
	地区福祉委員		53
	計	1,740	913
企業 職域団体	金融機関、郵便局	120	34
	シルバー人材センター	36	40
	近畿中央ヤクルト販売	90	31
	吹田薬剤師会、薬局		60
	吹田警察署		330
	大和病院、済生会吹田病院		179
	その他	65	137
	計	311	811
学校	小・中学校	414	301
	大学	804	631
	計	1,218	932
行政	市役所職員	28	370
介護サービス		374	176
	合計	3,671	3,202

(2) 認知症サポーターの活動支援

平成25年度から年1回サポーターフォローアップ研修を開催し、講演会と活動報告を行い、サポーターによる個人や団体での地域活動に共感が得られています。サポーター交流会については、平成27年度は地域での仲間づくり、サポーター主体の地域活動へつなげるためブロック別交流会を14回行いました。

ア サポーターフォローアップ研修

	平成25年度	平成26年度	平成27年度
開催日	平成26年1月22日	平成27年1月21日	平成28年1月26日
受講者数(人)	176	173	142

イ サポーター交流会

	平成25年度	平成26年度	平成27年度
開催回数(回)	2	15	14
参加延人数(人)	34	98	111

(3) 徘徊高齢者SOSネットワーク事業

徘徊高齢者SOSネットワーク事業へ登録している事業者は499事業者あり、前年度末から94事業者増加。登録者数は53人増え、121人が登録しています。本事業への検索依頼は7人ありましたが、全員無事に保護されています。

ア 徘徊高齢者SOSネットワーク事業登録事業者数

(単位:か所)

	平成27年3月末	平成28年3月末
介護保険事業者	172	190
郵便局	35	35
電気店	18	18
新聞販売店	19	19
介護タクシー	18	19
薬局	23	30
歯科医院	2	28
大阪府柔道整復師会	1	28
その他	67	82
合計	355	449

イ 徘徊SOSネットワーク事業登録者数

(単位:人)

平成26年3月末	平成27年3月末	平成28年3月末
36	68	121

ウ 徘徊SOSネットワーク事業検索人数 (単位:人)

平成25年度	平成26年度	平成27年度
4	12	7

(4) 認知症地域サポート事業 (徘徊高齢者検索模擬訓練)

平成25年度から2年間にわたる認知症地域サポートモデル事業を参考に、地域住民の方が取り組みやすいよう、「徘徊高齢者検索模擬訓練マニュアル」を作成。平成27年度は新規事業として、地域住民主体の事業実施に取り組みました。

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
実施日	平成25年 11月10日(日)	平成26年 11月1日(土)	平成27年 11月8日(日)	平成27年 11月21日(土)
訓練実施地区	藤白台	千三	西山田	岸部
参加者数(人)	161	163	108	107
認知症サポーター養成数(人)	270	477	350	245
新規見守り事業者登録数(か所)	13	36	14	-
新規徘徊SOS登録事業者登録数(か所)	13	29	13	-
報告会・意見交換会実施日	平成26年 2月15日(土)	平成27年 2月22日(日)	平成28年 1月24日(日)	平成28年 2月7日(日)
参加者数(人)	58	58	35	17